

旭川龍谷高等学校 令和5年度 授業シラバス

| 教科名 | 科目名 | 単位数 | 学年 | 必/選 | コース/フィールド |
|-------|--|-----|------|--------|-------------|
| 家庭 | 家庭基礎 | 2 | 1 | 必 | キャリアデザインコース |
| 科目の目標 | 家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で捉え、家族や家庭生活のありかた、子供と高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | | | | |
| 教科書 | 図説 「家庭基礎」 | | 副教材等 | 作成プリント | |

1. 学習の到達目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2. 学習計画及び評価の観点

※評価の観点：X(知識・技能)、Y(思考・判断・表現)、Z(主体的に学習に取り組む態度)

| 学習内容 | 時数 | 月 | 学習のねらい | 評価の観点 | | |
|---|----|--------|---|-------|---|---|
| | | | | X | Y | Z |
| 第1章 自分らしい生き方と家族 1 節 生涯発達する人生 2 節 これからの人生をデザインする 3 節 青年期を生きる 4 節 生活を支える労働 5 節 生活時間から見えてくるもの 6 節 男女共同参画社会をめざして 7 節 現代の家族 8 節 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 9 節 家族に関する法律の理念と変化 10 節 家族にかかわる法律 | 8 | 4 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージごとの発達課題や、ライフイベントについて理解する。 ・生活設計の方法と生活資源の重要性について理解する。 ・人生を考えるためには経済設計が重要であることを理解する。 ・青年期の課題である生活的・経済的・精神的・性的自立について理解し、自覚できるようにする。 ・職業につく意義や多様化する就業形態について理解する。また、家庭や地域での労働についても重要であることを理解する。 ・夫婦共働きが増えている状況、それを支える社会的支援の必要性を労働力調査や生活時間と関連させて理解する。 ・男女共同参画社会の推進について理解する。 ・これからの家庭生活や社会のあり方について、改善方法を挙げるができるようにする。 ・さまざまな結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族の抱える課題などを多角的に理解する。 ・家族に関する法律の理念や現在の動きについて理解する。 ・夫婦、親子、扶養、相続に関する民法について理解する。 | ○ | ○ | ○ |

| 学習内容 | 時数 | 月 | 学習のねらい | 評価の観点 | | |
|---|----|--------|--|-------|---|---|
| | | | | X | Y | Z |
| 第2章 子どもとかかわる 1節 子どもの誕生 2節 からだの発達 3節 運動機能の発達と知的発達 4節 かかわりのなかの発達 5節 子どもの生活習慣と健康 6節 子どもの食生活・衣生活 7節 子どもと遊び 8節 親になることを考えよう 9節 すこやかに育つ環境と支援 10節 子どもを守る法律・制度 | 7 | 5 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・10代の健康の大切さを理解する。 ・妊娠の成立から誕生までを理解することにより、その重要性を認識する。 ・子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を学理解する。 ・子どものものの見方・感じ方には子ども独特の世界があることを理解する。 ・発達には人とかかわりやふれあいなど、豊かな経験が必要なことを理解する。 ・すこやかな成長には生活習慣の形成や健康管理、安全対策が重要であることを理解する。 ・子どもの食生活・衣生活について理解を深める。 ・遊びの影響や種類を理解し、今日の課題解決に向けた行動を挙げることができるようにする。 ・子どもとの交流を通して、遊びが豊かになるよう工夫することができるようにする。 ・子どもを生き育てる意義について理解する。 ・子どもの人間形成における家庭の重要性を理解する。 ・家庭保育と集団保育、子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 ・子どもには、すこやかに育つ権利があることを理解する。 (前期中間試験) | ○ | ○ | ○ |
| 第3章 高齢者とかかわる 1節 高齢社会に生きる 2節 高齢者を知る 3節 高齢者のサポートと介護の心 4節 高齢社会を支えるしくみ | 3 | 6 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状を理解するとともに、高齢者への理解を深める。 ・高齢者の心身の変化と個人差、生活について理解する。 ・高齢者の介護について、介護される高齢者も介護する者も対等な関係にあることを認識する。 ・介護保険制度のしくみやサービスの内容、地域住民間での助け合いの活動などを理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| 第4章 社会とかかわる 1節 共に生きるために 2節 社会保障制度一公助一 3節 社会の一員としての私たちの役割一互助・共助一 | 2 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の考え方を理解する。 ・社会保障制度は行政を介した助け合いであることを理解する。 ・地域福祉に社とその課題に関心を持ち、活動に参画する姿勢を養う。 ・ボランティア活動に興味・関心が持てるようにし、実際の活動につなげる。 | ○ | ○ | ○ |

| 学習内容 | 時数 | 月 | 学習のねらい | 評価の観点 | | |
|--|----|--------|--|-------|---|---|
| | | | | X | Y | Z |
| 第5章 食生活をつくる 1節 私たちの食生活と健康 2節 5大栄養素 3節 炭水化物 4節 脂質 5節 たんぱく質 6節 ミネラル 7節 ビタミン 8節 その他の食品 9節 食品の選択と表示 10節 食品の衛生 11節 食料自給率と食のグローバル化 12節 食の未来と環境への取り組み 13節 食事摂取基準 14節 食品群別摂取量のめやす 15節 献立作成 16節 調理の基本 | 15 | 8 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活の傾向を理解し、健康的な食生活の必要性に気づく。 ・栄養とからだのつながりを理解する。 ・栄養素と水のはたらきを理解する。 ・炭水化物(糖質・食物繊維)の働き、炭水化物を多く含む食品の特徴(でんぷんの種類や変化など)についての基礎的知識を身につける。 ・脂質の構造(中性脂肪・グリセリン・脂肪酸)と、それぞれの働きについての理解する。 ・食品によって脂肪酸組成が違うことを知り、バランスよく摂取することの大切さを理解する。 ・たんぱく質をつくるアミノ酸について、特に必須アミノ酸の重要性を理解する。 ・たんぱく質を多く含む食品(魚介類・肉類・卵・豆類等)についての特徴について理解する。 ・ミネラルの種類や、からだの中での働きについての基礎的知識を習得する。 ・ミネラルを多く含む乳製品や海藻等についてもどのようなミネラルが豊富であるのかを理解する。 ・ビタミンの種類と、それぞれの持つからだの中での働きについての知識を習得し、野菜・くだもの・きのこ等のビタミンを多く含む食品について理解する。 ・甘味料・塩味料・酸味料・うま味料、香辛料等の種類について理解する。 ・コーヒーなどの嗜好食品、菓子などの食品、加工食品の種類と特徴について理解する。 ・特別用途食品や保健機能食品等についての種類と特徴、表示などについて理解する。 ・食品の旬や食品を選択する際に必要な品質表示の見方、また、選択する際のポイントがわかり、食品を適切に選択することをできるようにする。 ・食中毒の種類や予防法等を理解し、衛生的な調理や食事管理ができるようにする。 ・食品添加物の種類やその使用の目的について理解し、安全性についても考えることができるようにする。 ・私たちの食生活が世界とつながっていることを認識する。 ・安全面、環境面、新しい技術など多角的な視点でこれからの食について考えることができるようにする。 ・食事摂取基準を理解し、何をどれくらい食べるのかを理解する。 ・実際にバランスのよい食事計画につなげることができるようにする。 ・食品群別摂取量のめやす、食事バランスガイドを、生活の中で使い分けることができるようにする。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを考慮しながら、家族や状況にあわせて献立を作成できるようにする。 ・調理の流れ、調理操作を理解し、調理技術を習得する。 (前期期末試験) | ○ | ○ | ○ |

| 学習内容 | 時数 | 月 | 学習のねらい | 評価の観点 | | |
|---|----|----|--|-------|---|---|
| | | | | X | Y | Z |
| 第6章 衣生活をつくる 1節 人と衣服のかかわり 2節 健康で安全な衣服 3節 衣服素材の種類と特徴 4節 衣服素材の性能と改善 5節 衣生活の計画と購入 6節 衣服の管理 7節 家庭での洗濯・保管 8節 持続可能な衣生活をつくる | 9 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・人と衣服のかかわりについて、その背景や風土などを考えながら理解する。 ・衣服の機能を理解する。 ・例をもとに衣服の快適性とユニバーサルデザインについて理解する。 ・衣服の安全性を高めるための方法について理解する。 ・繊維の種類と特徴について理解する。 ・糸と布の種類・構造について理解する。” ・衣服素材の性能について理解する。 ・繊維の改質・加工の技術が発達し、さまざまな特徴を持つ繊維が生産されていることを理解する。 ・衣服の入手から処分まで、衣生活を計画的に考えられる方法を理解する。 ・衣服を購入する際の表示の見方がわかる。 ・湿式洗濯・乾式洗濯などの洗濯の方法や注意点を理解する。 ・界面活性剤の働きについて理解し、適切な使用ができる。 ・家庭洗濯の方法とポイントを理解する。 ・漂白と増白について理解する。 ・アイロンを適切にかける、られるようになる。 ・衣服を適切に保管・管理することができようになる。 ・衣生活と環境のかかわりを考え、環境に配慮した衣生活を営めるようになる。 ・衣生活が国際化する中、問題点を把握し、自分の行動を見直す。 | ○ | ○ | ○ |
| 第7章 住生活をつくる 1節 人と住まいのかかわり 2節 平面計画からみた住空間 3節 ライフステージと住まいの計画 4節 健康に配慮した住まい 5節 安全な住まい 6節 持続可能な住まい 7節 これからの住まい | 6 | 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの機能や地域性豊かな住まいの文化を理解する。 ・生活様式の変化や二つの起居様式について理解する。 ・日本の伝統的な住文化について理解する。” ・平面図の読み取りができるようになる。 ・生活の機能に応じた住空間の構成を理解する。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインの住まいとはどのようなものか理解する。 ・ライフステージによって、住まいに求めるものが変わってくることを理解し、事例を参考にライフステージによる理想の住まい方を考える。 ・健康的な住まい環境における基本的な知識を身につける。 ・住まいの清掃やメンテナンスについて学ぶ ・自然災害や人為的な災害と対策について理解する。 ・家庭内事故と安全な住まい環境について理解する。 ・長く住み継いでいくための方法について理解する。 ・環境に配慮した住まいや住環境にするための方法を理解する。 ・住生活の現状や住宅政策を理解する。 ・住環境の役割について学び、地域社会とのかかわりも含めて、よりよい住環境を理解する。 (後期中間試験) | ○ | ○ | ○ |
| 第8章 経済的に自立する 1節 日々の収入・支出を把握する 2節 社会と家計の変化 3節 長期的な経済計画を立てる 4節 経済のなかの家計 | 3 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・家計の構成や、収入と支出の特徴を理解する。 ・近年の家計の変化について理解する。 ・給与明細の見方を学習し、給与の使い方をシミュレーションする。 ・生活設計とかかわらせて、長期の経済設計の必要性について理解する。 ・資産運用について学ぶ。 ・国民経済と国際経済から家計について学ぶ。 ・安定した経済活動を営むために、家計管理が重要であることを理解する。” | ○ | ○ | ○ |

| 学習内容 | 時数 | 月 | 学習のねらい | 評価の観点 | | |
|---|----|-------------|---|-------|---|---|
| | | | | X | Y | Z |
| 第9章 消費行動を考える 1節 契約と主体的な消費行動 2節 多様化する販売方法と問題商法 3節 消費者を守る制度・法律 4節 多様化する支払い方法 5節 消費者の権利と責任 6節 持続可能な社会の構築 7節 持続可能な社会をめざす取り組み | 7 | 1 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「契約」について学ぶ。 ・消費行動における意思決定のプロセスや、生活情報の活用について学ぶ。 ・多様化する販売方法について、それぞれの特徴を理解する。 ・さまざまな問題商法や、被害にあった場合の解決方法について理解する。 ・消費生活にかかわる法律・制度を理解する。 ・さまざまな支払い方法のしくみや計画的にお金を使うことの大切さを理解する。 ・消費者の権利を守るためのしくみや法律を理解する。 ・消費者の権利と責任について理解する。 ・地球的規模の環境問題に対して、世界や日本の現状を理解する。 ・循環型社会をめざすための法律について学ぶ。 ・私たちの生活と環境問題との深いかかわりに気づき、自らの行動や選択を環境に配慮したものに変えることができるようにする。 (学年末試験) | ○ | ○ | ○ |